

【別紙1】令和4年度 環境基本計画 環境指標の進捗状況

基本目標	施策の方向性	環境指標	現況値 (計画時)	目標値 (達成年度)	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和4年度の 取り組み内容	前年度実績 との比較	指標の 進捗状況	
1 市の自然豊かな環境の後世への継承	1 緑豊かな山々と美しい水辺のある自然との共生	1 森林環境の保全	間伐等実施面積	183.7ha (令和元年度)	320ha (令和12年度)	271.94ha	213.5ha	適期適地森林での間伐施業を支援することにより、森林の多面的機能の保全と人工林における林分育成の向上を図っているが、間伐面積は昨年度より減少した。	58.44ha 減	後退
			防除区域内松くい虫被害木処理量	20.67m <sup>3</sup> (令和元年度)	20.00m <sup>3</sup> (令和12年度)	49.41m <sup>3</sup>	81.85m <sup>3</sup>	・地上散布(村上地区)A=9.80ha ・有人ヘリ散布(山北・神林地区)A=74.52ha ・無人ヘリ散布(山北・神林・村上地区)A=36.13ha ・伐倒くん蒸 V=81.85m <sup>3</sup> 昨年度同様に被害区域の調査と駆除、防除作業を行い、被害量の抑制を図ったが、昨年度に比べ被害面積、被害木体積はともに増加した。	32.44m <sup>3</sup> 増	後退
		5 野生鳥獣保護と鳥獣被害対策の両立	有害鳥獣による被害面積	11.33ha (令和元年度)	10ha (令和12年度)	19.98ha	6.56ha	電気柵 57集落、172箇所設置 電気柵設置済圃場が拡大したことにより農作物被害は減少したが、未設置箇所については被害が出ているため、電気柵の整備、駆除事業を実施した。特にイノシシによる被害が増加しているため、イノシシ用電気柵の設置を重点的に行った。結果的に被害面積は昨年度より減少し、目標値を達成した。	13.42ha 減	目標達成
			有害鳥獣による人的被害件数	1件 (令和元年度)	0件 (毎年)	0件	0件	防災メール、防災行政無線を活用した注意喚起、住家付近での有害鳥獣目撃事案におけるパトロールの実施した。結果的に人身被害は発生しなかった。	被害なし継続	目標達成
2 持続可能な循環共生型の社会	1 良好な生活環境の保全	1 快適な大気環境の保全	光化学スモッグ注意報発令件数	0件 (令和元年度)	0件 (毎年)	0件	0件	注意報の発令はなく、大気汚染の進行は見られなかった。毎年県と情報伝達訓練を行うなど、発令された場合の対応体制は整っている。	発令なし継続	目標達成
			2 快適な水環境の保全	河川水環境基準達成率(BOD等)	100% (令和元年度)	100% (毎年)	100%	100%	年2回、下水処理場からの放流水や河川等公共用水域の水質検査を実施。放流水においては、BOD等の基準が適合と認められた。	100%継続
		水洗化率(公共下水道・特定環境保全公共下水道)		72.3% (令和2年度)	82% (令和12年度)	75.4%	76.2%	市報等による啓発を実施した他、排水設備等設置資金貸付預託金や住宅リフォーム補助金による支援を実施した。	0.8% 増	前進
		水洗化率(農業集落排水施設)		85% (令和2年度)	95% (令和12年度)	87.8%	88.1%	市報等による啓発を実施した他、排水設備等設置資金貸付預託金や住宅リフォーム補助金による支援を実施した。	0.3% 増	前進
		合併処理浄化槽普及率		86.7% (令和元年度)	94% (令和12年度)	86.4%	85.1%	設置費補助及び維持管理費補助を行ったが、設置費補助の実績はなく、合併浄化槽の普及は進まなかった。	1.3% 減	後退
		3 安全・安心な環境の保全	新たな土壌・地下水汚染発生件数	0件 (令和元年度)	0件 (毎年)	0件	0件	新たな汚染は発生しなかった。関係機関と連携しながら監視を行っており、発生した場合の対応体制も整っている。	発生なし継続	目標達成
			化学物質による環境汚染事故の発生件数	0件 (令和元年度)	0件 (毎年)	0件	0件	新たな汚染は発生しなかった。県と連携した対応体制は整っている。	発生なし継続	目標達成
		4 その他の環境の保全	公害苦情件数(騒音、振動、悪臭)	11件 (令和元年度)	5件 (令和12年度)	8件	5件	市民から苦情の連絡を受けて現地確認等を行い適時対応した。結果的に昨年度より苦情件数は減少し、目標値を達成した。	3件 減	目標達成

基本目標	施策の方向性	環境指標	現況値 (計画時)	目標値 (達成年度)	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和4年度の 取り組み内容	前年度実績 との比較	指標の 進捗状況	
2 持続可能な循環共生型の社会	2 資源循環型社会の構築	1 5Rの推進	1人1日あたりのごみ排出量	769.8g/人・日 (令和元年度)	746g/人・日 (令和12年度)	735.0g/人・日	746g/人・日	計画に基づき事業を実施したが、数値が前年度より増加した。一因として8月豪雨の影響が考えられる。	11g/人・日 増	目標達成
			リサイクル率	21.0% (令和元年度)	28% (令和12年度)	20.7%	17.10%	計画に基づき事業を実施したが、数値は前年度より減少した。一因として8月豪雨の影響が考えられる。	3.6% 減	後退
			最終処分量	802 t/年 (令和元年度)	725 t/年 (令和12年度)	717t/年	775t/年	計画に基づき事業を実施したが、数値は前年度より増加した。一因として8月豪雨の影響が考えられる。	58t/年 増	後退
	3 環境保全型の持続可能な農林水産業の促進	2 適正な処理・処分の推進	不法投棄・野焼き件数	20件 (令和元年度)	10件 (令和12年度)	10件	3件	事案が発生した際には現場確認を行い、原因者は判明している場合は指導を行った。結果的に発生件数は大きく減少し、目標を大幅に達成した。	7件 減	目標達成
			1 環境に配慮した農林水産業の推進	にいがたグリーン・ツーリズム(農家民宿、直売所、農家レストラン)の登録件数	10件 (令和2年度)	10件以上 (令和12年度)	11件	11件	地域内に存在する多様な資源を組み合わせ、グリーン・ツーリズムを核とした各種ツアー・イベントの企画・実施やグリーン・ツーリズムに関わる人材育成、資源開発等、モデルプランの作成を行った。	増減なし
		2 持続可能な農林水産資源利用の推進	認定農業者登録件数	423人 (令和元年度)	450人 (令和12年度)	363人	345人	更新者については、認定農業者を継続できるように、農業経営改善計画の見直し等の指導を実施したが、登録者は減少した。	18人 減	後退
3 地球規模の気候変動等を意識した環境対策の展開	1 省エネルギーの推進	1 省エネルギー活動の推進	市民1人あたりエネルギー使用量	105GJ/人 (平成30年度)	105GJ/人 (令和12年度)	94GJ/人 (令和元年度)	82GJ/人 (令和2年度)	事業者向け「省エネ診断等支援補助金」、「省エネ設備導入支援補助金」、家庭向け「省エネ家電製品普及促進事業補助金」を新設した。減少することが一概に良いことと言えない指標ではあるが、省エネが推進された結果とみなし、目標達成と評価した。	12GJ/人 減	目標達成
			2 再生可能エネルギー等の利用促進	2 再生可能エネルギー機器の普及	市内における再生可能エネルギー発電設備の発電出力	95MW (令和元年度)	130MW (令和12年度)	95.8MW	96MW	住宅用太陽光設備設置費補助金を継続した他、東京理科大学と再エネの最大限導入による脱炭素計画づくりを実施した。
	3 温室効果ガス排出量の削減	1 温室効果ガス排出量の削減	市内の温室効果ガス排出量	577千t-CO2 (平成29年度)	477千t-CO2 (令和12年度)	526.7千t-CO2 (令和元年度)	491千t-CO2/年 (令和2年度)	製造業を中心に排出量の削減が進み、前年度より35.7千t-CO2/年低下した。	35.7千t-CO2 減	前進
			市有施設等の温室効果ガス排出量	26.1千t-CO2 (令和元年度)	22.3千t-CO2 (令和12年度)	25.9千t-CO2	25.5千t-CO2	省エネの推進などにより前年度より0.4千t-CO2/年の削減となったが、目標値達成のためには更なる削減を進める必要がある。8月の豪雨災害により大量の災害ゴミが発生したが、分別を徹底し処理を行った結果、プラスチックごみの焼却量は増加しなかった。	0.4千t-CO2 減	前進
	4 気候変動の影響への適応	2 気候変動による影響への対応	熱中症患者発生件数	91件 (令和元年度)	50件 (令和12年度)	56件	42件	環境要因によるものが多いが、市民への普及啓発や注意喚起の効果が表れ、結果的に前年度より発生件数が減少し、目標値を達成した。	14件 減	目標達成
4 歴史・伝統と美しい自然を活かした景観づくり	1 美しい田園、里山、海岸景観の保全	2 自然景観資源の保全活動の推進	クリーン作戦や一斉清掃の実施回数	83回 (令和元年度)	80回以上 (毎年)	46回	171回	コロナ禍の影響が徐々に収まり、前年度より大幅に増加し、目標値を達成した。	125件 増	目標達成
		2 歴史文化資源の保存活動の推進	伝統行事支援事業の実施件数	5件 (令和元年度)	50件/10年	3件	14件 (累計17件)	コロナ禍の影響が徐々に収まり実施した行事も増えたことから、大須戸能、村上祭、瀬波祭、岩船祭など計14件に対し支援を実施した。	11件 増	前進

基本目標	施策の方向性		環境指標	現況値 (計画時)	目標値 (達成年度)	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和4年度の 取り組み内容	前年度実績 との比較	指標の 進捗状況
5 市民や産業とともに発展する環境づくり	1 環境意識の向上	2 環境学習等の促進	環境学習イベント後の満足度(アンケート)	—	50% (令和12年度)	-	-	環境フェスタ村上開催時の実施を予定していたが、環境フェスタを中止としたためアンケートを取ることができなかった。	-	未実施
	2 環境活動の推進	1 環境保全活動への参加の促進	環境フェスタ参加団体数	12件 (平成30年度)	100件/10年	-	-	環境フェスタへの開催へ向けて準備を行ったが、8月豪雨の被災状況を鑑み開催を断念した。	-	未実施
	3 ネットワークの形成	1 地域内のネットワーク形成の推進	クラインガルテン利用者数	639人/年 (令和元年度)	600人/年 (令和12年度)	472人/年	487人/年	令和3年度と同様にコロナ禍の影響で一部イベントが中止となった。栽培講習会や収穫祭、視察研修会など行ったほか、サポーターが中心となり、施設利用者との交流を積極的に行った。	15人/年 増	前進